

この街に
この人あり

創部7年 地域と 結ばれた吹奏楽部に



糟谷 小枝子先生

今回は松溪中学校で吹奏楽の指導をされている糟谷小枝子(かすや・さえこ)先生を、翌日はアンサンブルフェスタのコンクールという猛練習の中、お訪ねしました。

吹奏楽部の創部についてお聞かせください

私自身も学生時代から現在まで吹奏楽に携わっています。松溪中に赴任したところ、吹奏楽部がありませんでしたので立ち上げました。初めは7名の部員でスタートしましたが、ほとんどの生徒が楽譜は読めず、楽器も触れたことがない初心者でした。でも、1年もすると生徒たちの技術はみるみる上達します。毎年3月の定期演奏会で成長過程の演奏を生徒や保護者、地域の方々に聴いていただいています。

地域との交流を大切にしているとのことですが

吹奏楽部は入学式や運動会などには活躍できる部なので、学校行事には欠かせない大切な存在です。また学校の中だけでなく生徒と共に老人ホームなど地域に出向いて演奏します。年配の方々に合わせて歌謡曲を演奏したり、昨年初めて参加した「荻窪センター祭」にはお子さんもいるのでアナと雪の女王の「Let it go」など流行の曲も取り入れたりしました。皆様の大きな拍手が演奏している生徒の喜びと自信になっています。



練馬文化センターで行われた第54回東京都中学校吹奏楽コンクール

学校同士の交流もありますか

平成26年度東京都中学校吹奏楽コンクール東日本部門金賞、東京都中学校アンサンブルコンテストA部門B部門共に金賞を頂き、生徒はもちろん保護者の方々からも称賛されました。昨年11月の荻窪音楽祭では天沼中学校、南相馬市立原町第一中学校と合同演奏もさせて頂きました。

区内中学校の駅伝でも天沼中学校と2校で応援演奏をやりました。

人生のモットーがありますか

生徒たちには、単に技術を高めるだけでなく、舞台での立ち振る舞い、お客様との接し方なども学んでもらい、吹奏楽という媒体を通してより豊かな人間形成につなげたいと思っています。今後も機会さえあればいろんな場所へ出かけたいと思っています。

文化系の部活と思っていましたが、運動部の先生かと思うほどの声が飛びそれに対して「はい！」と生徒たちのはきはきした声が返ってくる体育会系の一面も。心地よさを感じながら練習場を後にしました。



荻窪地域区民センター祭での演奏風景



厳しい練習、すばらしいチームワーク